

3月1日 水曜日
2023年(令和5年)

発行所
福島県立原町高等学校
同窓会
福島県南相馬市原町区西町3-380
電話 (0244) 23-6196
印刷所 有限会社ライト印刷



題字は元同窓会会長門馬直孝氏

原高同窓会会報



うつつし世のあらしにまけず 原高の伝統を繋いだ一五二名 本日晴れて卒業

本日、福島県立原町高等学校第七十五回卒業証書授与式が挙行されます。新たに会員となる一五二名のご活躍を心からお祈りします。

負けないで



同窓会長

杉 昭重
(二十二回卒)

第七十五回一五二名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。人生の新たなステージに進まれる皆さんの奮闘を期待するとともに、原町高校同窓生となられました皆様を大いに歓迎いたします。

コロナ禍も四年目、行動制限はなくなりつつありますが、まだまだ収束には至っていません。加えて、ロシアによるウクライナ侵攻に端を発した危機に伴うエネルギー問題や食料問題が原因と思われる物価高騰もあり、皆さんの高校生

活は大変だったと思います。しかし皆さんは、多くの人の励ましの下、今自分出来ることに専念し、学業・部活動を頑張りと、夢の実現に一歩一歩近づけたと思います。

私は、高校の校長の時、時には人と人を繋ぐ力があり、時には、言葉よりも歌も効果的だと、歌でも生徒たちを励ました。特に、若い頃、私自身も励まされたZARDの「負けないで」を好んで歌いました。「負けないで」も少し、最後まで、走り抜けて」と。原発事故の際も、

ふるさとを追われ、避難している人たちのために、避難所を訪れ、合唱部と共に歌で元気を届けました。

しかし、原発事故から十二年が経ちますが、まだまだ多くの人が、ふるさとに戻れていないことや、廃炉・処理水などの問題もあり、被災地の復興はまだまだ道半ばという状況です。その上、原発事故後、「原発の新増設は想定していない」としていたことが、「原発の新増設、運転期間の延長を可能とする」などの決定が近頃なされていきます。事故の教訓と被災地の想いをないがしろにするものです。これらの問題も含め、被災地の復興はまだまだ課題が山積ですが、皆さんにはこれらの困難に負けないで、それぞれの目指す道で、頑張ってください。そして、皆さんの目指す未来において、復興のリーダーになっていただきたい。

「未来へ引き継ぐ」



校長 吉田 浩美

四月に着任以来、早くも一年の歳月が流れようとしています。杉 昭重同窓会長様はじめ、同窓会の皆様には、日頃から格別のご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、令和四年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に翻弄されながら終えようとしています。このような状況にもかかわらず、校内合唱コンクールや文化祭「柏曜祭」などの大きな行事を開催

できましたことは、原町高校の伝統や文化を引き継ぎ、次に繋げられたものと確信しております。特に、昭和三十四年以来、毎年開催されていた校内合唱コンクールにおいては、三年ぶりの開催となりました。在校生が全員未経験者であり、かつてのようなレベルの高いコンクールとして維持できるか大変心配しました。しかし、生徒達は過去の映像などを参考にしっかりと練習を進めたため、心に残る素晴らしいハーモニーが第一体育館

を包み込み、私をはじめとする教職員に大きな感動を与えてくれました。また、三年に一度の文化祭「柏曜祭」では、新規感染者数が増加したことを受け、一般公開はせず、保護者のみの限定公開といたしました。仮装行列やクラス・文化部等の発表を通し、普段以上に生徒達の躍動感あふれる姿や笑顔が輝いていました。

次に、部活動です。今年度も多くの運動部が県大会に出場し、とりわけバドミントン部は東北大会に、そして陸上競技部が全国大会に出場いたしました。また、文化部では、美術部や箏曲部が全国高等学校総合文化祭(東京総文二〇二二)に参加しました。さらに、放送部においては令和五年二月に青森県で行われる東北新人大会への、そして箏曲部においては来年度の全



南相馬市博物館が企画展を開催 相双地方の 被爆体験を伝え継ぐ



山崎 健一
(旧職員・十六回卒)

相双地方に二十名の被爆体験者

昨年は、ロシアのウクライナ侵略で核兵器の使用が、全世界で憂慮されました。七十八年前の一九四五年八月六日の広島、九日は長崎の原爆での被爆体験者が相双地区に二十名もいたことを、皆さんはご存知でしょうか。元々広島や長崎の住民だったり、また相双地区出身で広島や長崎の軍隊にいて被爆し、その後相双地区に移ったり帰った方々です。

凄絶な体験ばかりです

その方々の被爆体験談集は『私も証言する』の題で一九八三年に出版。広島で十四名、長崎が五名、広島と長崎の二重被爆一名の計二十名ですが次の①～⑳のように悲惨で凄絶な体験ばかりです。
①広島市の軍隊で建物疎開作業のためトラックで広島市の中心部に向かう。愛宕町の踏切で貨物列車が通過し止められ、八時十五分原爆が炸裂し吹き飛ばされる。踏切で止められなかつたら命はなかつた。累々と横たわる死体、川には後のように無数の死体が流れ、けがや火傷の人が助けを求め私の足にからみついできてこの世の地獄でした。
相馬市に復員するが、体調が悪く、福島県で第一号の被

爆認定患者になりました。
②花房三郎さんは広島で被爆。きのこ雲は雷雲のように美しく輝いて見えた。
③飯土井鶴吉さんは、広島市の比治山の部隊の宿舎三階で被爆する。談笑中だった戦友は脳が破裂し即死だった。
④原町の桑原馨さんは、原爆投下の時、建物のかげで助かった。でも放射能を含んだ毛布を広島市の軍隊から持ち帰り、それを使った奥様が甲状腺ガンになり死亡させたのではないかと悔やんでいる。
⑤原町の高山甫さんは軍隊の朝礼の後、爆風で二十メートルも吹き飛ばされた。
⑥中川善久さんは軍の命令で無数の死体を棒でかき回して焼却し、「俺たちは地獄の鬼だ」と言いあいながら残酷な作業を続けた。八月に麻酔なしで盲腸の手術を受け、九月に戦友の高山甫さんと二人に介助され鹿島の実家に帰ることができた。戦争体験を本にして残すのは大切と話す。
⑦遠藤昌弘さんは広島市の陸軍病院に入院中で軽傷だが、夕立のように降った「黒い雨」にうたれて呆然としていた。
終戦後小高町に帰り町役場に勤務し、原発は放射能の平和利用だと信じていたが、原発事故で神奈川県に避難を強いられ、裏切られた思いだ。

⑧岡実さんは広島市の皆実町の通信部隊で被爆。負傷した大勢の市民が、救援や水を求めて部隊にやってきた。
⑨三原市の軍隊にいたが、六日朝から広島で一週間ほど救援にあたる。素手で死体を担架に乗せて運んだりした。
⑩広島市の爆心地から一キロで被爆し、意識を失った私を誰かが川原の安全なところに運んでくれて助かった。
⑪広島にいたが無傷ですんだ。軍備を拡大するより、そのお金を平和外交につかった方が賢明ですと訴える。
⑫広島から相馬市に無事復員できたが、「父が被爆者」という理由で娘の縁談は二度も解消されてしまった。
⑬広島で七月中旬、「京都に避難せよ」という米軍機から来たハガキ大の硬い紙に印刷の宣伝ビラを読んだ。
⑭直接被爆はしていないが、故郷広島の中学校のグラウンドに埋められた遺体を掘り起こす作業で二次被爆した。

広島と長崎の二重被爆

⑮軍の命令で横須賀から長崎に向かう途中、八月七日に広島市内を歩いて被爆。九日朝に長崎市に到着し、旅館で休憩中の十一時二分直接被爆した。諫早の病院で顔に刺さったガラス片を抜き取る手術を受けた後に目覚めた。広島と長崎で二度被爆した希少な「二重被爆者」です。
⑯八牧将勝さんは長崎の十五歳の中学生で、物凄い閃光と轟音、激しい衝撃で吹き飛ばされた。「私に落ちたのか、目がつぶれた」と思った。
⑰富岡の渡辺豊さんは、日本郵船から動員で長崎に移動し、八坂町の浪花旅館で被爆。原爆炸裂の瞬間、轟音とともに赤黒い炎が空いっぱい渦を巻いて、私たちのいる部屋の窓からも入り込んできた。
⑱十一歳小学六年の時、長崎の自宅でマンガを読んでいた。飛行機の爆音で庭に出て、爆風で吹き飛ばされた。やがて仕事を求め東京、原町に移住するが体調が悪化し妻の働きに頼り、どうせ被爆者だからと大熊町の原発で働こうとしたが病弱で断られる。今でも毎年八月になると、青空に風船のようなものが浮かぶ幻覚におびえている。
※この方は今年八九歳。二十名の中で唯一健在の方です。

怪我や火傷の校友たちに手当てをしたいが、薬も食糧もなく、私の手を握ったまま亡くなった校友が忘れられない。
⑳海軍兵だったが、長崎でB29機からパラシュートで食糧でも落としてくれたのかと思いがら見ていた。以上が二十名の体験です。

出版のいきさつは

さて、『私も証言する』出版のいきさつですが、四十年前の一九八一年(昭和五六年)から数年続いた世界各地の反核反戦の市民運動に刺激され、原町市(南相馬市)の高校教員を中心に十人ほどで平和をめぐす「原水爆を考える原町市民の会」を立ち上げました。会長に古山哲朗さん、会員に教員の朝倉悠三、青田勝彦、志賀達次、早坂吉彦、桑折孝雄、志賀忠重、浜名絃隆さんらがいる。当時三六歳で一番若かった私が事務局を任せられ、反核映画「にげんをかえせ」や「予言」の上映会や、広島長崎の原爆展示会を原町市文化センターで開催しました。

記録に残せば伝わる

ところがすでに、国連と福島大学の呼びかけで、当時の原町高校の社会科学の先生方、大内秀夫、守谷早苗、松谷彰夫、新妻慎一、大竹篤の各教諭が、相双地域に住む被爆者を調査し、五人の体験談が原町高校文化祭で発表されていたことを知りました。
そこで映画の感想文とその五人の体験談を手書きの冊子として発行することになり、もう一度被爆状況の確認や公表の承諾を得るため各被爆者を訪ねてみました。すると他にも多くの被爆者が相双地区にいて、再調査して何度かやり取りし、被爆の絵も描いてもらいました。こうして二十名の体験談がまとまり、一九八三年(昭和

第4回柏曜賞 受賞者の横顔

「柏曜賞」は、成績優秀かつ部活動や学校行事等においても模範となる生徒へ贈られる賞であり、卒業学年より一名選出される。
今年度受賞者となった渡邊優典さんに部活動など思い出を質問しました。



渡邊優典さん
(3年4組)

受賞の感想

身に余る賞の受賞に大変恐縮しております。この三年間は何度も悩んで立ち止まったり、苦しめて度度も諦めそうになったり、紆余曲折した高校生活でした。ですが、そんな時、励みになったのは周りで支えてくださった方々の存在でした。先生方からいただいた熱心な指導の数々、仲間と過ごした何気ない日常、皆様から送られる応援のお言葉。これら全てが私を突き動かす原動力となりました。この場を借りて皆様にお礼申し上げます。

陸上競技部での思い出

八月に行われた東北総合体育大会男子八〇〇mで準優勝しました。兼ねてから目標としていた全国大会には及びませんでしたが、最後の夏、原町高校の代表として、東北の大舞台で走れたこと、大変光栄に感じます。高校卒業後は中距離の第一線からは離れ、長い距離

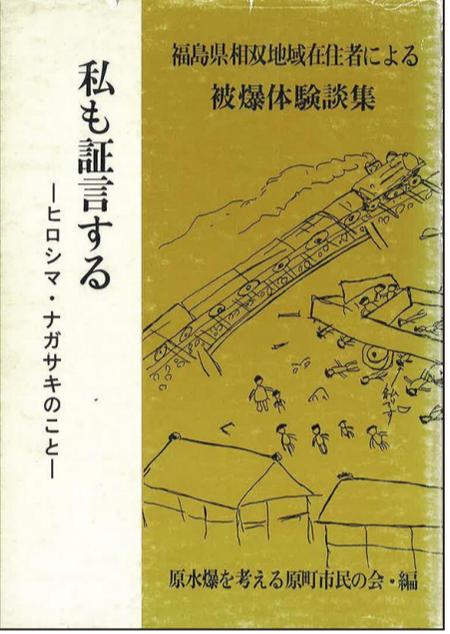
事務局より

同窓会総会について

新型コロナウイルスの流行により、令和四年度同窓会総会は中止となりました。準備されていた議案の審議については、事務局より役員の皆様へ資料を郵送し、紙面表決の結果すべて承認が得られたことを報告します。

活動協力金の現状報告

募金活動の結果十二月二十二日現在、五十五万四千円(手数料二万五千六百十九円を含む)のご寄付をいただいております。たいへんありがとうございます。ご寄付はこれまで柏曜会館の施設修繕に使用してきました。今年度は二階男子トイレを修理しました。



私も証言する

ヒロシマ・ナガサキのこと

『私も証言する』は40年前の1983(昭和58)年出版(B6判・198ページ)原町高校や市の図書館にもあり、昨年復刻再版されました。

活躍する同窓生

世界は一人からはじまる

高橋 美加子さん (十八回卒)

●自己紹介をお願いします。

短大卒業後、実家に戻り、以来五十四年間、父の跡を継ぎ、地域に役立つ会社になることと、女性が生き生き働ける職場作りを目標に(株)北洋舎クリーニングの経営に携わってきました。代表取締役になつて二十二年を契機に、昨年無事に事業継承することができ、現在は取締役会長として会社を見守っています。

外のエコロジッククリーニング技術やアパレル仕様の機械設備、店舗では顧客管理のできるコンピュータレジ、経営面ではオフィスコンピュータなどを早々と取り入れてきました。二〇二一年には県内初の環境対応の溶剤使用のドライ機を導入、二〇二二年一月には県から環境衛生優良事業所として表彰を受けました。



洗濯板

●「北洋舎クリーニング」の創業の歴史を教えてください。

弊社は昭和二十三年五月、私が産まれて三か月後に父が現在の本社で創業しました。父は、樺太(ロシア領サハリン)でクリーニングの修業をしたので、その地に因み店名を「北洋舎」と名付けたそうです。戦後すぐなので、物がなく、洗濯板一枚からの出発でした。其時のすり減った洗濯板は家宝として今も社長室に飾られています。技術一筋の厳しい父でしたが、当時最先端のドライクリーニングの機械を県内三番目に導入するなど、常に向上心を持って走り続け、その血を引いた私も、昭和五十年代には、工場では環境共生を目指して海

●東日本大震災当時の家族の状況を教えてください。

二〇一一年三月一日に父が亡くなり、六日にお葬式、一日にはお店のリニューアルセールがあり、あわただしくしていました。そこに震災、原発事故です。家には、長女が生後九か月の女の子を連れて滞在していたので、十二日には、夫はすぐに娘家族を連れて田村市の次女の家避難しました。私は会社があるの一人残りでしたが十五日に避難し一週間後戻り、それから、怒涛のような出来事が続きました。幸い、一か月後には従業員も戻ってくれて、みんなで頑張つて会社を再開できました。この時の人とのつながり、温かさの体験が今の活動の原点になっています。

●「まなびあい南相馬」はどのような活動をしているのですか。

震災直後、若い人と「つながろう南相馬」という団体を三年限定で立ち上げ「ありがとうからはじめよう」スローガンに活動をしてきました。五年が過ぎたころから、ハードの面だけが復興しても心が取り残されていると感じることが多くなり、震災で支援に入ってくれていたファシリテーターの人たちの活動に共鳴し、ファシリテーションというスキルを使つてみんなで語り合つてまちづくりをしたいと「まなびあい南相馬」という団体を作り活動を始めました。これまでの六年間、①まちづくりファシリテーション講座、②自分で自分の心をケアするセルフケア講座、③おおかあさんと赤ちゃんが一緒に楽しんで心を緩めるワークショップ、④こころとからだを開放する身体詩ワークショップ、⑤避難先から戻ってきた人たちが、自分の地域のアイデンティティを



●高橋美加子さんのプロフィール

昭和23年2月16日 南相馬市原町区に生まれる。(1948) 3姉妹の長女
昭和43年3月 宮城学院女子短期大学教育科卒業
昭和43年4月 株式会社北洋舎クリーニング入社 (1968)
昭和45年11月 結婚 (1970) (子供1男2女、孫5人・2020年金婚式)
平成14年4月 株式会社北洋舎クリーニング代表取締役就任 (2002)
平成23年3月11日 東日本大震災・原発事故 (2011)
平成23年4月～27年3月 福島県中小企業家同友会相馬地区会長 (2011年度～2014年度)
平成23年4月～26年 「つながろう南相馬」を立ち上げて震災復興の市民活動を始める。(2011年度～2014年度)
平成26年4月～28年3月 原町商工会議所女性会会長 (2016年度～2017年度)
平成28年1月 エイボン女性年度賞復興支援賞 (2016)
平成28年1月 任意団体「まなびあい南相馬」設立 (2016)
令和4年2月16日 株式会社北洋舎クリーニング代表取締役退任、取締役会長就任 (2022)

団体役員
まなびあい南相馬 代表
NPO 法人子どもつばさ 理事
一般社団法人カリス南相馬 監事
福島県中小企業家同友会相馬支部代表

●原町高校時代の思い出を教えてください。

原町時代は、演劇部に所属し、わいわい楽しく過ごしました。地区予選で、セリフを飛ばしてしまいがちで、その時の先輩が今でも口惜しがっているというところを最近知り、びっくりに謝りました。三年生になってからは山登りに魅せられ、それが高じて、新婚旅行は磐梯山登山でした。●地元への思いを教えてください。

震災直後、南相馬が一人を切る状態になった時、残つてまちの存続を賭けて様々な活動をしてきましたが、根源で支えてくれたのはこの土地の美しさでした。空、海、里山の自然の豊かさを感じる心をもう一度取り戻し、子どもたちが生き生きと育つ環境作りを取り組んでいきたいと思つています。いのち輝く南相馬であつてほしいと願っています。

●原町高校の在校生に伝えたいことを教えてください。

全ては一人から始まります。自分の存在は、この地球、宇宙のピースとして欠かせない存在です。あなたというピースが世界を変える。これは、あの震災、原発事故を乗り越えてきた私の実感です。一人の想いが沢山の山、モノを生み出し今に至っています。そんなことを皆さんと、語り合いたいです。よかつたら私たちの「まなびつてカフェ」に来てください。哲学しましょ！

母校近況

●合唱コンクール

私達一年一組は、それぞれ部活動などで忙しく、十分な練習ができたとは言えないもののクラスの一人一人の努力と前向きな姿勢が練習をより質の高いものへと変えていきました。今回の合唱コンクールで学んだ事を今後のクラスの成長へとつなげていきたいです。

- 三年一組 青いベンチ
- 三年二組 糸
- 三年三組 正解
- 三年四組 花になれ
- 二年一組 友よこの先もずっと！
- 二年二組 スパークル
- 二年三組 ありがとう
- 二年四組 水平線
- 一年一組 僕のこと
- 一年二組 空も飛べるはず
- 一年三組 今咲き誇る花たちよ

●修学旅行

二年一組 寺島梨々花
私たち二年二組は、三日目のクラス別研修では吉本のライブに行きました。個人的に修学旅行で特に楽しみにしていたことのひとつで、終わつた後の余韻は今でも忘れられません。本場のお笑いは別格で、とても幸せな時間をクラスメイト達と過ごすことができました。



修学旅行

●柏耀祭

三年三組 佐藤 芽音
高校生活の中で一番大きな行事と言える「柏耀祭」が無事に幕を閉じました。夏休み中も全クラスが、毎日のように企画の制作に励み、限定公開ではありましたが、当日は予想以上の盛り上がりでした。仲間と共に創り上げた柏耀祭は、かけがえのない思い出になったと思います。皆さん、本当にお疲れ様でした。



●プログラミング演習
今年度のプログラミング演習に参加して、今までもより複雑なプログラミングを組むことが出来るようになってきました。私は一年生の頃から参加していましたが、当時はプログラムを打ちこむのが遅かったり面白いプログラムが思いつきませんでした。今回はゲームを作成しましたが、玉の位置や速度をランダムに変える難しいプログラムを打てるようになり、前回よりも成長を感じました。またプログラミングを学ぶ機会があれば、より複雑なプログラムを組もうと思っています。

同窓会へのお問合せや紙面へのご意見・ご感想は下記までご連絡ください。

原町高等学校同窓会事務局
E-mail : harakou.dousoukai@gmail.com
TEL 0244(23)6196 FAX 0244(23)7909
学校ホームページも随時更新しています。あわせてご覧ください。

原町高校ホームページ

大部会活実績動

美術部

- 県総合美術展覧会 鈴木美紗姫 佳作・県文化スポーツ局長賞
- 全国高等学校総合文化祭とつきよう総文持館歩実 出品

吹奏楽部

- 県吹奏楽コンクール 高校第一部 金賞
- 県高等学校音楽学習発表会 参加

放送部

- NHK杯全国放送コンテスト 優良賞
- 団体 ドキュメント部門 佳作
- 高野真帆 アナウンス部門 佳作
- 県高校新人放送コンテスト ラジオキャンペーン部門 優秀賞
- テレビキャンペーン部門 優秀賞
- 高野真帆 アナウンス部門 佳作
- 大井紀葉 アナウンス部門 佳作

数科学部

- 県総文祭自然科学部門 生徒理科研究発表会 3テーマ発表

箏曲部

- 全国総文祭とつきよう総文日本音楽部門 演奏審査 A評価 最優秀賞
- 日本音楽部門コンクール 最優秀賞

一心響音

二年 佐藤 菜々香

私たち箏曲部は、「一心響音」をモットーに、二年生五名、一年生六名で活動しています。「一心響音」には、心を一つにして私たちの奏でる音を会場中に響かせたいという思いが込められています。私たちは、昨年十一月に行われた福島県高等学校文化連盟第十五回日本音楽コンクールで最優秀賞をいただき、今年の七月末に開催される「かこしま総文」への出場を決めました。

私たちは、「全国大会出場」の目標達成のために大切にしてきたことが二つあります。一つ目は、共通理解を図ることです。それぞれの考えを全員で共有し、曲やフレーズのイメージを同じく持つことで、一体感のある演奏ができるようにしてきました。また、作者が曲に込めた思いや曲に描かれたストーリーを言語化したことで、全員で同じイメージを言語化しながら演奏することができました。二つ目は、揃えることです。昨年八月に参加した「とつきよう総文」では、他県の優秀校の演奏を間近で鑑賞することができました。演奏する時の指使いだけでなく、演奏動作も揃えることで、音楽に一体感が生まれることを学びました。

その後に行われた県大会では、音の強弱の他にも動作を揃えることを意識しながら演奏しました。

全国大会までの五ヶ月ほどで、更に演奏の技術を上させ、自分たちの納得の行く演奏ができるように、毎日の練習に真摯に取り組んでいきたいと思えます。



野球部

- 全国高等学校野球選手権県大会 2回戦 対 福島 1-2

弓道部

- 県高等学校体育大会 女子団体 準決勝進出
- 男子個人 門馬陽向 遠的の部 第6位
- 男子・女子団体 出場

バレーボール部

- 県高等学校体育大会 女子団体 ベスト12 出場
- 男子団体 出場

バスケットボール部

- 県高等学校体育大会 男子 ベスト16 出場
- 女子 出場

- 県総合体育大会 男子 出場
- 県高等学校選手権大会 女子 ベスト8 出場
- 県高等学校新人体育大会 男女 出場

バドミントン部

- 県高等学校体育大会 男子団体 ベスト8
- 女子団体 出場
- ダブルス 遠藤也真斗・西山匠海
- ベスト16 大河内那奈・工藤凛
- 2回戦進出 遠藤理功・鈴木誠
- 渡邊星光・柴田嘉文
- 今野瑞雪・西陽花
- 千葉遥奈・塚部綾菜

シングルス

- 3回戦進出 遠藤理功・鈴木誠
- 工藤凛・今野瑞雪
- 大河内那奈
- 2回戦進出 遠藤也真斗・渡邊星光

東北高等学校選手権大会

- 男子団体 対 前沢 0-3
- ダブルス 遠藤也真斗・西山匠海
- 3回戦進出 渡邊星光・田中陽大
- 大河内那奈・工藤凛
- 今野瑞雪・西陽花
- 京谷七海・山中凛乃
- 遠藤理功・鈴木誠

県高等学校新人体育大会

- 男子団体 ベスト8
- 女子団体 第3位
- ダブルス 遠藤也真斗・西山匠海
- ベスト16 今野瑞雪・西陽花
- 3回戦進出 佐々木拓己・佐藤功真
- 青田紬・金子光希

陸上競技部

- 全国選抜東北予選会 女子団体 対 鶴岡中央 1-3
- 県高等学校体育大会 石橋和也 やり投 第1位
- 小方祐佳 やり投 第7位
- 濱田恭太 円盤投 第5位

東北高等学校陸上競技大会

- 石橋和也 やり投 第6位
- 小方祐佳 やり投 第7位
- 濱田恭太 円盤投 第4位
- 濱田恭太 円盤投 第11位

全国大会出場

- 東北総合体育大会 渡邊優典 800m 第2位
- 県高等学校新人体育大会 佐藤亨介 1500m 第10位
- 大杉優衣 ハンマー投 第4位
- 谷津田真子 やり投 第8位
- 東北新人選手権大会 大杉優衣 ハンマー投 出場
- U18陸上競技大会 小方祐佳 円盤投 出場

卓球部

- 県高等学校体育大会 シングルス 阿部遥太 3回戦進出
- 県総合体育大会 シングルス 阿部遥太 2回戦進出
- 全日本卓球選手権大会県大会 シングルス 阿部遥太 3回戦進出
- ダブルス 阿部遥太 4回戦進出
- 県高等学校新人体育大会 男子団体 阿部遥太 3回戦進出
- シングルス 阿部遥太 3回戦進出

サッカー部

- 全国高校サッカー選手権県大会 1回戦 対 船引 5-2
- 2回戦 対 安積 2-4
- 県シングルス選手権大会 岡田萌々花 ベスト16
- 県春季大会 男女団体 出場
- ゴースン杯争奪県大会 ダブルスの部 藤原怜生・渡部匠海 3回戦進出
- 渡部慧志・鈴木大和 2回戦進出
- 橋本真奈・岡田萌々花 2回戦進出
- 菅野心優・徳野里菜 3回戦進出
- 県高等学校体育大会 男子団体 ベスト16 出場
- 女子団体 出場

方々、そして新型コロナウイルス感染防止対策を行い、大会を開催運営して下さった関係者の皆さんに感謝申し上げます。



剣道部

- 県高等学校体育大会 男子団体 古山瑛仁・鈴木大和 2回戦進出
- 女子団体 平三史朗・米倉健真 2回戦進出
- 近藤暖太・岡田健太郎 2回戦進出
- 門馬啓・本田知生 2回戦進出
- 菅野心優・青田莉朋 2回戦進出
- 西恵美莉・大杉杏奈 2回戦進出
- 県インドア選手権大会 古山瑛仁・鈴木大和 ベスト16
- 平三史朗・米倉健真 2回戦進出
- 県総合体育大会 男子団体 古山瑛仁・鈴木大和 2回戦進出
- 女子団体 平三史朗・米倉健真 2回戦進出
- 県高等学校新人体育大会 男子団体 古山瑛仁・鈴木大和 2回戦進出

編集後記

会報第五十五号をお届けします。お忙しい中ご寄稿いただいた方々に感謝申し上げます。今年度母校に勤務している同窓会会員をご紹介します。

- | | |
|------------------|------------------|
| 事務局局長 齊藤 清人 (34) | 事務局会計 角南 輝美 (38) |
| 目高 裕志 (26) | 志賀 健彦 (30) |
| 高野 庄一 (33) | 高橋 由美 (33) |
| 山岡 眞由美 (33) | 川村 葉子 (45) |
| 林 実奈 (53) | 上遠野 晋一 (54) |
| 鈴木 明香 (54) | 鳥中 優多 (69) |
| 高野 亜美良 (70) | (数字) : 卒業回 |

